

次期森林計画についての森林管理署の検討方向 (佐賀西部森林計画区)

－ 目 次 －

1. 現行計画の概要

- (1) 国有林野の管理経営に関する基本的な事項
- (2) 国有林野の維持及び保存に関する事項
- (3) 林産物の供給に関する事項
- (4) 国有林野の活用に関する事項
- (5) 国民の参加による森林の整備に関する事項

2. 次期計画の検討方向

佐賀森林管理署

1. 現行計画の概要（平成30年4月1日～令和5年3月31日）



- ・ 佐賀西部森林計画は、佐賀県の北西部に位置し、唐津市、伊万里市、有田町の2市1町からなり、国有林面積は5,182haとなっています。
- ・ 計画区内の全森林面積の約12%に当たり、天然林が44%、人工林が56%(2,921ha)を占めています。
- ・ 森林の種類は普通林が14%、制限林が86%となっており、制限林の98%が保安林でその内水源かん養保安林が94%となっており、唐津市・伊万里市等の下流域の水がめとして重要な役割を担っています。
- ・ 本計画区には、虹の松原風致探勝林等がレクリエーションの森として設定されており、散策や森林浴などの保健休養の場として多くの人に利用されています。
- ・ 本計画区の伊万里市には、伊万里木材コンビナートが平成16年3月に設立され、九州北部地域等の国産材の需要拡大につながっています。

(1) 国有林野の管理経営に関する基本的な事項

① 機能類型に応じた管理経営

国有林野の管理経営に関する基本計画に即して、開かれた「国民の森林」に向けた取組を推進するため、個々の国有林野を重点的に発揮すべき機能に応じて、5つの機能類型に区分し、それぞれの発揮すべき機能に応じて管理経営を行っています。

機能類型区分	機能区分の考え方	目指すべき森林の姿	面積(ha)
山地災害防止 タイプ	山地災害の防止及び土壌保全機能の発揮を重視	根や表土の保全、下層植生の発達した森林	1, 133
自然維持 タイプ	原生的な森林生態系や希少な生物の育成・生息する森林など属地的な生物多様性保全機能の発揮を重視	良好な自然環境を保持する森林、希少な生物の育成・成育に適した森林	58
森林空間利用 タイプ	保健、レクリエーション、文化機能の発揮を重視	保健・文化・教育的利用の形態に応じた多様な森林	1, 102
快適環境形成 タイプ	快適な環境の形成の機能を発揮を重視	騒音の低減や大気の浄化など、人の居住環境を良好な状態に保全する役割を持つ森林	0
水源涵養 タイプ	水源の涵養の機能の発揮を重視第一とすべき森林	人工林の間伐や伐期の長期化、広葉樹の導入による育成複層林への誘導を図る森林であり、森林資源の有効利用にも配慮	2, 889

② 森林の流域管理システムの下での森林・林業再生に向けた貢献

県・市町村等との密接な連携を図るとともに、組織力・技術・資源を活用し、民有林経営の支援等に積極的に取り組めます。

林業技術向上のための現地検討会を実施しています。



国有林内において、県・市町及び森林組合が参加して、路網と高性能林業機械を組み合わせた低コスト・高効率な作業システムに関する現地検討会を行い、民有林への技術の普及に取り組んでいます。

県・市町村や民有林と連携しながら、林業知識や技術向上などに取り組んでいます。



伊万里有田地区森林林業民国連携支援チームによる意見交換会などを行い、民有林林業技術者の知識醸成及び技術向上のために取り組んでいます。

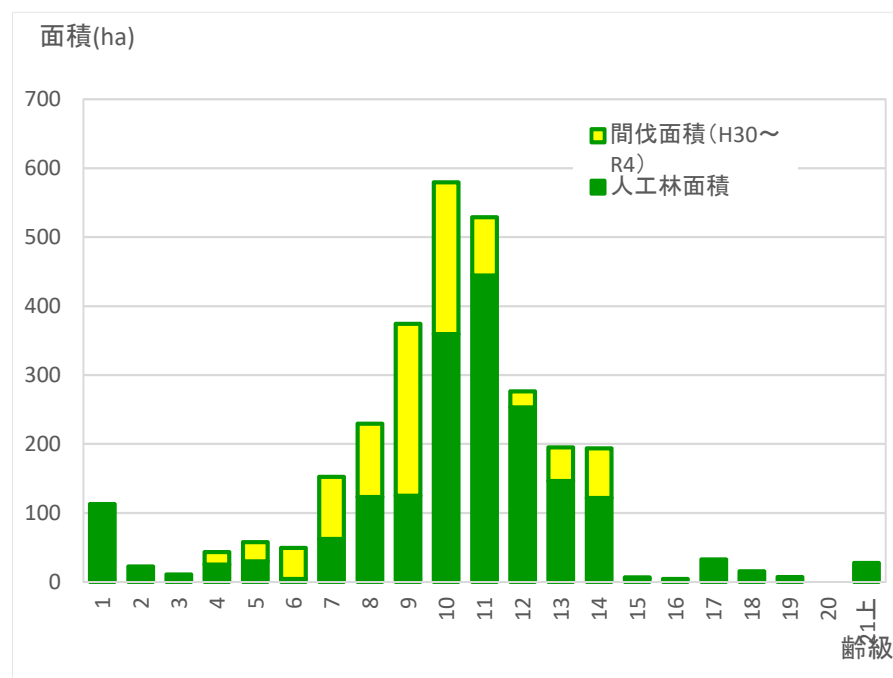
③ 地球温暖化防止に向けた積極的な間伐等の推進

本計画区の人工林の面積は約2,921haで、16年生から60年生の人工林の面積は約2,291ha（人工林面積の78%）です。

また、現行計画（平成30年度～令和4年度）では間伐を約986ha計画しており、森林吸収源対策のためにも間伐を推進しています。



列状間伐を導入した人工林



注：1年齢級は1～5年生を表します。

④ 多様で健全な森林の整備・保全

間伐をはじめとした森林整備に積極的かつ着実に取り組むとともに、針広混交林化、複層林化、長伐期化などを通じて、多様で健全な森林の整備・保全を推進します。



現状(人工林)



複層林化



長伐期化された森林

⑤ 国民生活の安全・安心の確保に向けた効率的・効果的な治山事業の展開

安全・安心の確保に向けた効率的・効果的な治山対策に取り組んでいます。

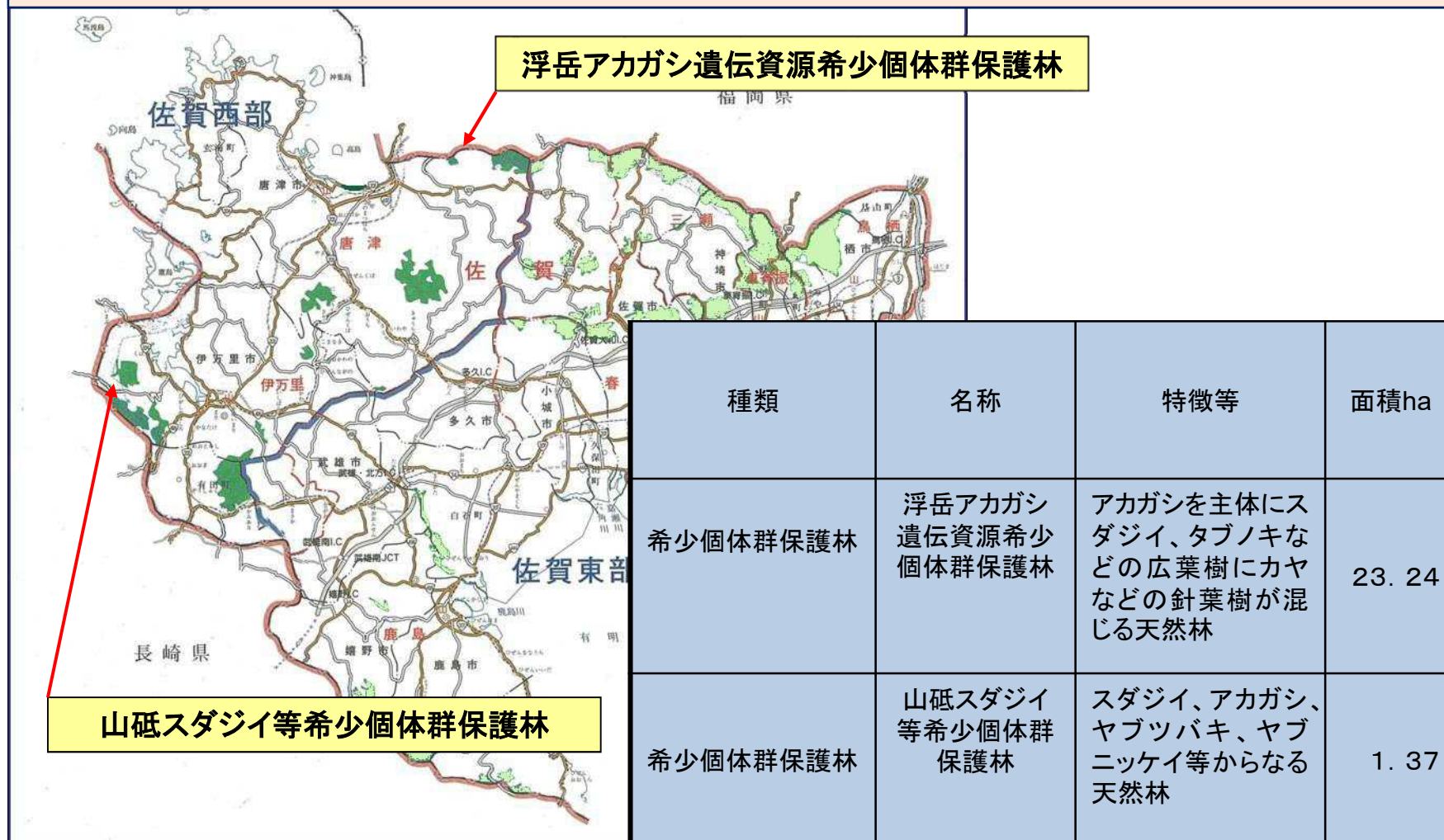


佐賀県有田町の岩越地区において、隣接する学校施設や民家への落石防止のため、リングネット工などの山腹工による予防治山工事を実施しました。
また、コンクリート谷止工をはじめとする溪間工に間伐材等を積極的に使用し木材利用の推進に取り組んでいます。

(2) 国有林野の維持及び保存に関する事項

① 生物多様性の保全(保護林)

本計画区には貴重な天然林等が多数存在しており、これらについては保護林を設定し、適切に保護・保全を図っています。



(3) 林産物の供給に関する事項

① 高効率・低コストな作業システムの定着

伐採、造林等の事業の実施の効率化を図りつつ、健全な森林を整備するとともに、木材の需要動向や木材産業の状況等を的確に把握しつつ、国有林材の安定的な供給を推進しています。

プロセッサによる造材作業



森林整備事業(保育間伐【活用型】)では、列状間伐を取り入れ、高性能林業機械を活用した作業仕組みによる低コスト作業システムを実施しています。



伊万里木材コンビナート



システム販売を拡充し、木材の安定供給による国産材体制構築の取組を加速させています。

(4) 国有林野の活用に関する事項
レクリエーションの森の保健・文化的利用の推進

優れた自然景観を有し、森林浴や自然観察、野外スポーツ等に適した森林をレクリエーションの森として設定し、地域の方々に提供しています。



虹の松原風致探勝林

種類	名称	概要	面積(ha)
風致探勝林	虹の松原	玄海国定公園内において、日本三大松原のひとつといわれ、白砂青松の景観は特に優れており、林内散策等野外レクリエーションの場として年間を通じて観光客が多い。また、夏季には海水浴場としても親しまれている。	211

(5) 国民の参加による森林の整備に関する事項

① 国民参加の森林づくり

国有林野をフィールドとした国民参加の森林づくりを推進しています。



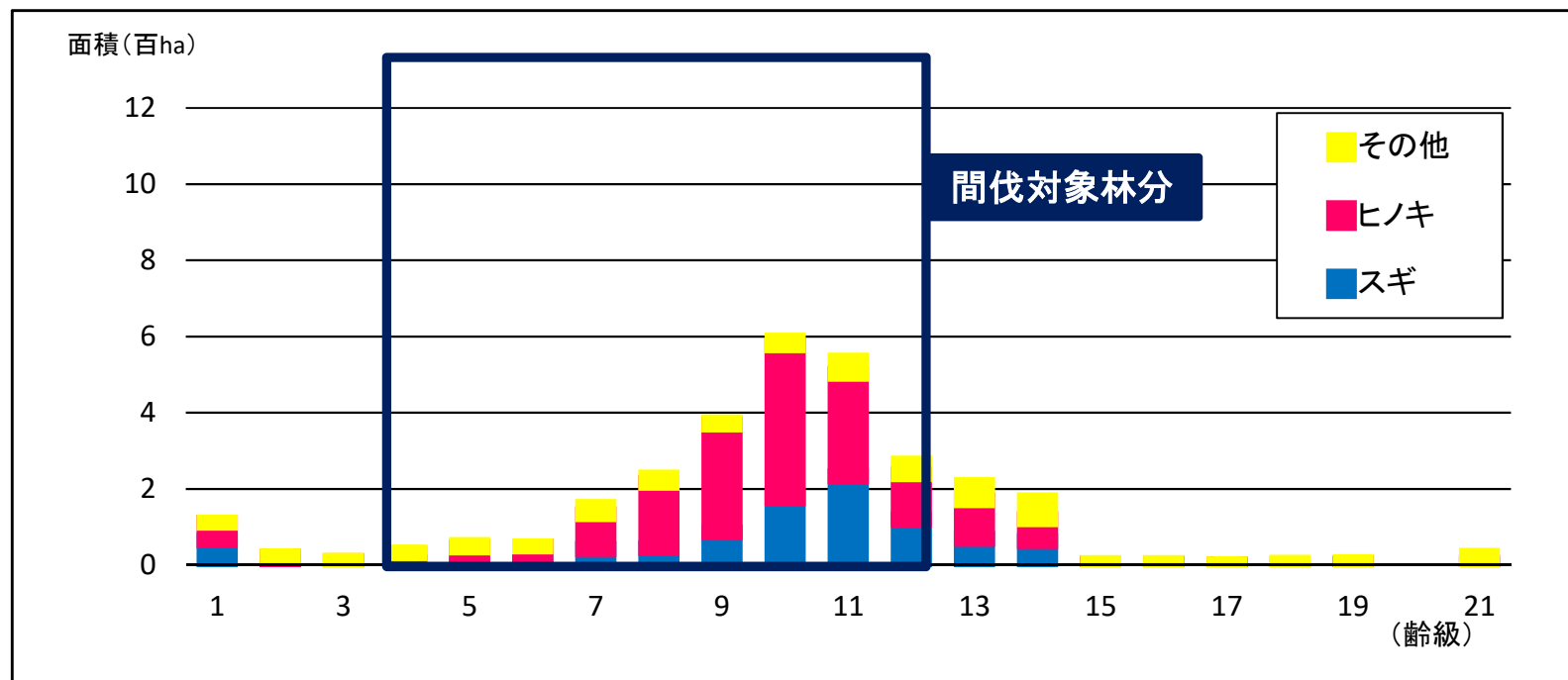
虹の松原保護・対策協議会を中心に、NPO法人唐津環境防災推進機構KANNEが企業や団体、地域住民等の協力を得ながら、アダプトワーキングによる、松葉かき、落枝の除去、除草など健全な森林づくり活動を行っています。

2 次期計画の検討方向

(1) 管理経営上の課題

- 本計画区の国有林野が有する水源かん養機能や保健文化機能等の公益的機能の発揮を高めていく必要があります。
- 次期計画においても間伐対象となる16年生から60年生の人工林の割合は80%と現行計画と同程度であり、健全な森林づくりのほか森林吸収源対策の上からも引き続き間伐を推進する必要があります。

人工林齢級構成



- 積極的に主伐・再造林行うべき森林においては、将来的に均衡がとれた齢級構成に移行させることに配慮しつつ、計画的に森林資源の循環利用を行うことにより、森林の有する多面的機能の持続的な発揮を図るとともに、森林吸収源対策にも貢献する必要があります。
- 健全な森林を整備していくため間伐等の適切な実施と伐採後の更新による森林整備とともに公益的機能の発揮と両立した木材生産を行う必要があります。
- 本計画区には玄海国定公園も含まれており、日本三大松原の一つである虹の松原風致探勝林など、利用者も多い地域となっていることから、優れた自然環境を有する森林の保全など、公益的機能を発揮させる必要があります。
- 本計画区は依然として松くい虫による被害が発生しており、特に虹の松原においては今後とも県、市や地元の方々と連携して被害の防止対策を実施していく必要があります。
- 森林病虫害等に強い多様な森林の造成を立地条件に応じ推進していく必要があります。
- 本計画区には希少個体群保護林を設定しており、これらの国有林野を適切に保全管理していく必要があります。



松くい虫防除の実施状況(地上薬剤散布)

- 国民参加による森林づくりに関する問い合わせや相談が増加していることから、これらの要請に適切に応えていく必要があります。
- 国産材の安定供給を実現するため、生産システムのコスト縮減と生産性向上を進める必要があります。
- 木質バイオマスエネルギーの原料として、新たなニーズに応えるため、これまで利用してこなかった林地残材等の利用を進めていく必要があります。
- 国民が安全・安心に暮らせる環境づくりに向けて、治山対策に取り組む必要があります。

プロセッサによる低コスト化作業



伊万里地区のコンクリート谷止工



(2) 計画内容

- 公益的機能の維持増進を旨とする管理経営を行うとの方針の下、多様で健全な森林の整備・保全を行うほか、森林吸収源対策として引き続き間伐を推進するとともに、将来的に均衡がとれた齢級構成に移行させることに配慮しつつ、主伐とその後の再造林を計画的に推進する方向です。
- 保安林の保全機能を維持することとし、松くい虫などにより保全機能の低下した松林においては広葉樹への樹種転換など多様な森林の造成を推進する方向です。
- 社会貢献活動として森林づくりに参加・協力したいとする企業等の要請に応えるため、「分収林」制度を活用して、森林整備を推進する方向です。
- 生産システムのコスト縮減と生産性の向上を図るため、簡易で壊れにくい路網の整備を引き続き推進する方向です。
- これまで利用されてこなかった林地残材等の有効利用を図るため、これらを含む国産材のシステム販売に努める方向です。
- 民有林と連携して効果的な治山事業の実施に取り組むとともに、地域住民と協働して山地災害対策を進める方向です。